

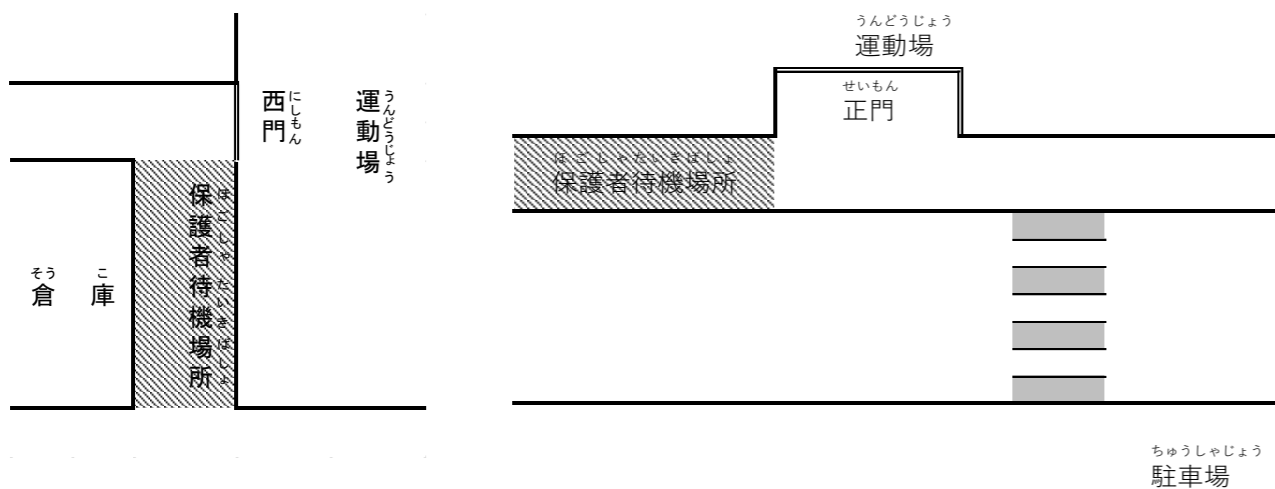
「正門・西門まで」「正門・西門から」は保護者の方が付き添ってください。

壬生野小学校では、通学団による徒歩での通学を基本としていますが、数年前から、かなりその基本が崩れてきています。そのため、特に、下校時は、一人で下校することになってしまうケースも多く、そのことが心配で、さらに自家用車での送迎が増えるといった「悪循環」が見られます。

地域の方からも、「どうしてあんなにも車での送迎が多いのか。」「車での送迎について、学校としてどう考えているのか。」という声もいただいています。また、「横断歩道を子どもだけで渡っているのは大変危ない。保護者が付き添うべきではないのか。」といった声もいただいています。

先にも書いたように、学校としては、すべての子どもが安全に登下校できるよう、保護者の方との合意の上で、地域ごとに「通学団」を組織し、徒歩での通学を基本としてきた経緯を、再度、保護者の方にもしっかりと認識していただかなくてはいけないと思っています。

また、正門・西門までは保護者の責任であることはこれまでもお伝えしてきています。ですから、都合で、自家用車による送迎をせざるを得ない時にも、学年関係なく、登下校とも、横断歩道を渡る際には、必ず保護者の方が付き添って渡らせていただくことになっています。しかし、その点についても、最近では、守っていただけていないご家庭があります。今一度、ご確認、ご協力をお願いします。ただし、下校時に門の前に保護者の方がたくさんおられると下校の妨げになりますので、お迎えの保護者の方は、下の地図の「保護者待機場所」（正門の西側、西門の南側）で待つようにしてください。ご協力をお願いします。



「私服登校 & 帽子登校」の期間は9月30日までです。

熱中症対策として実施している「私服登校 & 帽子登校」の期間は、9月30日までです。それ以降は、通常の登校服とヘルメットでの登校に戻します。2年生以上は、制服での登校が基本ですが、新たに、制服以外での登校を希望される場合には、それまでに「令和5年度以降の登校時の服装についての申請及び誓約書」の提出をお願いします。用紙は、担任が持っています。

第8回 まなびん から

先週から、「まなびん」を再開しました。「休日における家庭での学習習慣の定着」が、本校も含め、伊賀市における大きな課題となっています。宿題も含め、休日にも、平日同様、しっかりと家庭で学習をさせるようにしてください。

3年生

修飾語についての問題を出しました。修飾語とは、「文中で『どんな』『何を』『どのように』『どこで』などいろいろなことを表し、ほかの部分の内容をくわしく説明することば」のことです。「主語は何か」「述語は何か」が分かるようになりますとともに、「他の部分を詳しく説明していることばがどれか」「そのことばは、どのことばを詳しく説明しているのか」といったことが分かる力をつけていきたいと思います。

次の文の「線部の修飾語は、どんな意味を表していますか。そのアークからあてはまるものを選んで記号で書きましよう。

キ	ア	(8)	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
何ぞ	どんなふう	姉から	ベンの	赤い	教室で	かめが	火曜日に	自転車で	母は
ク	イ	クッキーを	キャップを	チューリップの花が	もえさんと	山を	野球の試合を	乗って	スーパーで
どんな	何の	三まい	ゆかに	さく。	話す。	ゆつくり	登る。	図書館へ	トマトを
	カ	もらう。	落とす。	……	……	……	……	行く。	買う。
	どのくらい	……	……	……	……	……	……	……	……

4年生

同音異義語の問題を出しました。同音異義語とは、発音が同じで、意味が異なる語です。今回は、「かんしん」「あつい」「かん」を出題しましたが、それ以外にも、下のような同音異義語がよく出題されます。「いがい」「きかい」「きかん」「こうえん」「こうか」「しゅうかん」「しょうか」「せいさん」「たいしょう」「おさめる」「かえる」「たつ」「つとめる」「とまる」「とる」「はかる」他

(3)	(2)	(1)
② さい判官が判決をくだす。	① あついお茶を飲む。	① 弟の作文にかんしんする。
① 水道かんから水がもれる。	② 今年の夏はあつかった。	② いろいろな国の文化にかんしんをもつ。

こうした言葉を聞いて、それぞれいくつの漢字が思いつきましたか。同音異義語を理解するためには、まずは、漢字や熟語自体の意味を知っておくことが必要です。その上で、漢字の練習をする際には、短文や熟語で練習することがお勧めです。その漢字1文字だけを何回も書いて練習してもあまり力はずきません。今回の問題で言えば、「作文に感心する。」「文化に関心を持つ。」「熱いお茶」「夏は暑い。」「水道管」「さい判官」といった短文や熟語を書いて練習するということです。

3年生や4年生ではまだまだ習う漢字は少ないですが、3年生以上の子どもたちには、「漢字自体の意味や成り立ちを覚える」「短文や熟語として漢字を練習する」ことが、「ことば」を増やすことにつながります。